

# ヒラメ（地方名：ソゲ、ハガ）



ヒラメの成長（年齢起算日は7月1日）

年齢	オス		メス	
	全長(cm)	体重(kg)	全長(cm)	体重(kg)
1	26.8	0.2	26.8	0.2
2	36.3	0.5	37.3	0.5
3	43.4	0.9	46.3	1.0
4	48.8	1.3	53.9	1.6
5	52.8	1.6	60.5	2.3
6	55.8	1.9	66.0	3.0

竹内(1987)

## 生態

- 分布・移動：全国沿岸の水深0～150m、粗砂および砂礫域に生息します。夏季（産卵期）は沿岸へ、冬季は沖合へ移動します。
- 成熟・産卵：オスでは満2歳、メスでは満3歳で成熟魚がみられます。全長ではオス35cm、メス44cmで成熟します。産卵期は5～8月です。
- 食性：成魚は主に魚類を食べ、幼魚期はアミ類を食べます。

## 漁獲の動向

令和4年の漁獲量は727トン、金額は689百万円でした。  
震災以降、操業自粛、国による出荷制限で水揚げはありませんでしたが、平成28年10月から試験操業対象種とされ、漁獲が開始されました。漁獲量は令和2年が568トン、令和3年が598トン、令和4年が727トンと操業の拡大とともに徐々に増加しています。

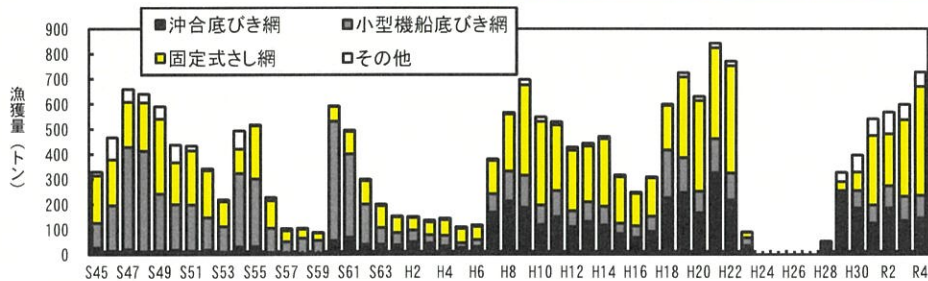


図1 ヒラメの漁業種別漁獲量の推移

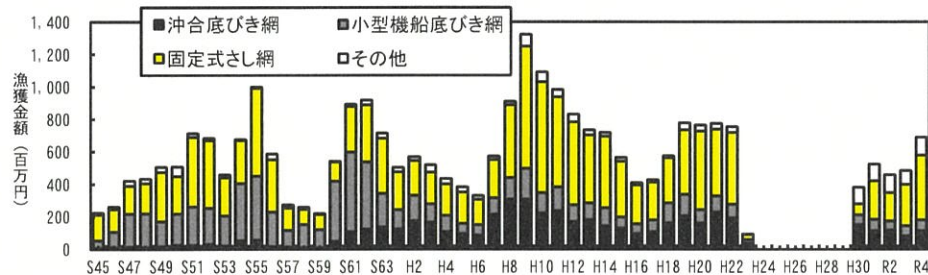


図2 ヒラメの漁業種別漁獲金額の推移（H25～29は相対取引によりデータなし）

## 資源の状態

- 原発事故の影響により、現在も操業が限定されていますが、漁獲量は震災前と同程度まで回復していることから、資源は高位で推移しているものと考えられます。
- 平成30年以降、天然魚0歳個体の発生量が多いことから、令和4年度も高い資源水準が続く見込みです。

資源の水準：高位  
資源の動向：横ばい

## 現在実施されている管理策

平成5年から漁業者の取り決めにより、全長30cm未満のヒラメの水揚げと販売を禁止しています。試験操業においては、漁業者の自主規制として全長50cm以上のヒラメを漁獲対象としてきました。

令和3年度以降も漁業者が自主的に漁獲全長を制限し、持続的な資源の利用に取り組んでいます。

## 今後考えられる管理策

現状の資源管理を継続し、資源を持続的に利用することが必要です。